

# インド中銀ラジャン総裁の 退任表明について

## ポイント① ラジャン総裁、退任を表明

6月18日、インド準備銀行（中央銀行）のラジャン総裁は、今年9月4日の任期満了に伴ない、退任することを表明しました。

ラジャン氏は、IMF（国際通貨基金）のチーフエコノミストなどを経て、2013年9月に同中銀の総裁に就任しました。就任後は、インフレ抑制や通貨価値の安定への成果などが高く評価され、モディ政権の成長路線を支えてきました。市場からの信認も厚く、任期満了後も続投すると見られていたことから、今回の退任表明は驚きを持って受け止められました。

## ポイント② 与党からの批判も退任の背景

今回の退任の背景には、与党の一部から批判が出ていたことがあります。ラジャン総裁は、同中銀の政策の透明性を高めるための金融政策決定方法の見直しや、不良債権処理の促進といった金融システムの健全化などの改革を進めており、これらを巡って政府と方向性に食い違いが生じていました。また、モディ首相率いる政権与党BJP（インド人民党）内の一部有力メンバーから、金利を高水準で維持しているとの批判が高まっていた。

加えて、BJPを支持する業界団体や宗教団体の意向が強く働いた可能性も取り沙汰されています。

## ポイント③ インドルピーは小幅下落

今回の退任表明を受けて、週明けの6月20日14時頃の東京外国為替市場では、対米ドルで17日比0.4%程度、対円で同0.1%のインドルピー安となりました。また、東京時間14時頃のインド5年国債利回りは同0.02%上昇（価格は下落）、インド株式市場は同0.3%上昇しました。

ラジャン総裁がインド金融市場の信認を高める重要な担い手であったことから、短期的には金融市場でネガティブな影響が高まる可能性があります。しかし、ラジャン総裁が取り組んできた改革の方向性が維持される限りは、影響は限定的とも見られており、今後の後任人事が注目されます。

図1：インド株式市場の推移



図2：インド5年国債利回りの推移

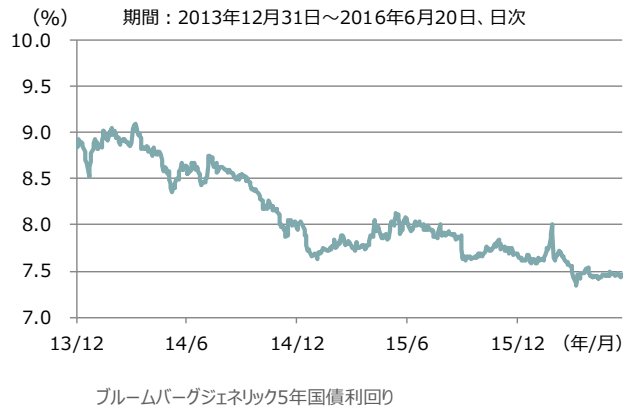


図3：為替レートの推移



6月20日のデータは東京時間14時頃。  
（出所）ブルームバーグデータより野村アセットマネジメント作成

重要  
イベント

7月12日	消費者物価指数（6月）
7月12日	鉱工業生産指数（5月）
8月9日	金融政策発表